

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

日山協総会報告

会長 鈴木敏雄

5月19日、岸記念体育館で日本山岳協会平成8年度通常総会が開催された。

まず議題に従い、平成7年度事業報告、同会計収支決算報告がなされ、続いて平成8年度事業計画(案)、同予算(案)について提案がなされ原案どおり承認された。

次に、第6号議案に提案の日山協財務改善中期計画の策定原案の提案理由説明を受ける。これは今年度通常総会における最大の課題であり、各県におけるの関心事で、その理由について、現在、日山協の財政難をもちあわしているあらゆる問題点を検討し、組織運営の機構や各種事業の執行面を含め検討を加えることが必要であり、財務問題が中心課題としても関連する組織運営や事業の在り方についても検討を加え、必要な改善を進めることが重要であるとの結論から、こうした問題意識のもとに改善を進めるためには短期ではなく、中長期的な展望をもって計画的に取り組む

必要がある。と意見は続出したが結果的に承認され、平成8年度を準備期間とし平成9年度より実施することとして、来年平成9年度通常総会において会費の改訂(値上げ)を行うことに決定した。

必要から今年度を準備期間、平成9年度から平成10年度の2年間にわたって段階的に会費の改訂をおこない、併せて運営組織の機構や運営方法についても検討、整備を行いつつ、計画達成の成否を検証する平成11年度に終了する長期計画である。と提案理由の説明。更に日山協の財務特性と問題点を要約すると、

- ①長期にわたる慢性的な財務不安定
- ②基本金の不足と長期にわたる低金利による影響
- ③海外派遣や、その他特殊事業の赤字が財政を圧迫
- ④物価の上昇や運営経費の増加に対応が困難な固定的会費収入の不足
- ⑤会計諸規程の未整備に伴う厳正を欠いた予算執行など、各項が挙げられる。しかしこれについては、各県より理解はできるが、日山協が会費を値上げすることにより、各岳連・協会に、更に末端の組織山岳会ひいては各個人一人一人の山岳会員にも波及する問題である。と意見は続出したが結果的に承認され、平成8年度を準備期間とし平成9年度より実施することとして、来年平成9年度通常総会において会費の改訂(値上げ)を行うことに決定した。

改訂の内容
一、定款
第六条(会費)の規定を次のとおり改訂する。
(現行規定)
正会員の代表する団体の構成団員数に三〇〇〇円を乗じたものに五〇〇〇〇円を加えた金額
(改訂案)
正会員の代表する団体の構成団員数に五〇〇〇円を乗じたものに一〇〇〇〇円を加えた金額
二、定款施行細則
①団体数割
三〇〇〇円を五〇〇〇円に改定は、平成十年四月一日から実施
②均等割
五〇〇〇〇円を一〇〇〇〇〇円に改訂は、平成九年四月一日から実施
従って当山岳協会は、来年度会費五〇〇〇〇円の増、平成10年度は、現在に比べ均等

笠原藤七氏 望月力氏 公認スポーツ指導者表彰

日本体育協会では本年度より公認スポーツ指導者表彰事業を行うこととなり、本県から県登山界の長老、笠原藤七氏、望月力氏の両氏が永年にあたる山岳指導普及振興に貢献された功勞が認められ、このたび日本体育協会会長から表彰されました。

なお、この感謝状は後日、両氏に伝達授与いたします。おめでとうございました。

割額も含め一九六〇〇〇円の増額となる予定である。

続いて業務組織の一部改組について提案がなされ、現行普及指導部は、指導、遭対、自然保護、普及の四部門であるが、近時の青少年育成と健全化、特に高体連登山部との連携とジュニアの養成と対策等から、新たにジュニア委員会を新設し、組織の充実と併せて体制の確立を図ることを目的とした。との提案があり承認された。

ミングの二種目)について、今後この二種目とする方向で進んではいるが、開催決定県ではすでに三種目で準備計画がなされており、これの移行は高知国体以降(7・8年後)であろうとのことである。

その他、理事の改選、理事会付託事項等審議し平成8年度通常総会は滞りなく全日程を終了した。議題外として、

カムチャツカ讃歌 ⑩

幻だった日本人初登頂(終)

日本山岳会会員 小倉 厚

3時0分 ヘリ再離陸。3時55分 脚下にかなり大きな町が見えた。4時15分 峠(ポストチヌイ山脈の鞍部)越えにかかる。途中、小型飛行機(セスナ機)にすれ違ったが、この巨大なヘリに比べると、まるでトンボのように小さく頼りない。脚下に一本の筋が走っている。カムチャツカを横断する道路だが、車の姿はほとんど見えない。往路と同じで、ただ逆方向を飛んでいるわけだが、やはり脚下の景色は底抜けに明るく美しい。やがてそれも広大

第35回全日本登山体育大会

平成8年9月14日から16日まで秋田県、鳥海山にて、秋田県山岳連盟主催。

平成8年度日本山岳協会自然保護総会

平成8年10月19日から20日まで新潟県津南町にて新潟県山岳協会主催の二事業の紹介があり、事業の開催とこの協力方並びに参加の要請がなされた。

な広葉樹林帯となり、左右に山がせまる。これもまた明るくまぶしい残雪の北国の春だ。牛や農家が現れ里へ。ビルが見え町へ。5時10分 エリゾボ・ヘリポート着陸。バスでペトロパブロフスクールカムチャツキーの町へ向かう。久しぶりの都会の空気にふれる。

り、まるで函館の町にそっくりだ。ホテル着 6時0分 ここまで一緒だったロシアの隊員に、残しておいたプレゼント。女性たちは大喜びだったが、名こり惜しい別れ。ここで我々の登山活動は終わるが、まだ後日談がある。ほかに客があるということ、以前とは違った部屋割りとなった。なによりも風呂。行きにはお湯がぬるくて入れなかつたが、全員で一斉にお湯を出しなんとか熱くして入浴。各部屋から水の音がして、何日ぶりの風呂に満足した。7時から夕食と懇談があるというところで、我々全員食堂に集まった。やはり先客があった。日本山岳会東海支部の人々だという。いずれ劣らぬ屈強な山男たちに見えた。ウオッカを注文する。再び我々はルーブルの世界に帰って来たことを知る。行きの時にはルーブルの数の、単位のもさのためにはトラブルが起きた。しかし、それ以外はロシアの人は明るい。堂々たる典型的な、ロシアの女性マルガリータさん(ホテルのママ)のロシア民謡は素晴らしい。

その美声に酔いながらウオッカで乾杯。上機嫌この上なくで上がった。とにかく、帰国の準備を完了にしたあと、死んだように眠った。7月2日はいよいよカムチャツカを離れる日。気温14度と暖かい。昨夜同席の登山隊も行動を共にするという。そこまではよかった。バス待ちの間に名刺をもらおうと、(初)日本山岳会東海支部 環太平洋一周地球環境調査登山隊 隊長 篠崎純一と書かれている。6月16日に名古屋出発。ペトロから車でベースキャンプ入り、なんと22日にトルパチュクに登頂したという。従って我々は感激の日本人初登頂とばかり思っていたが、ここで

「パーティを組むメリット」メンバーのチェック機能が果たせるか。自分一人ではなく何人かによっていろんな方向から検討する事が重要だ。リーダーは万端でなくいろんなリーダーがいて、いろんな過失や

第二登ということになり、タツチの差で初登頂は幻となってしまった。初登頂はやはり難しい。(終)

遠征隊員と現地スタッフ



平成7年度

指導員研修会報告 ③

指導員会 三 富 一 弥

思い込みは普通あることで、リーダーはごくごく普通平凡で、参加するメンバーは連れてってもらおうという事でなく、自分自身が主体的に関わって独自の判断をもつ事によってリスクを最小限にする事であ

る。

「山行中に記録・メモを残す」
 具体的に計画書を提出しても、事故等に遭った時その計画書の中のごとまで、パーティが行動しているんだらうかとか、途中での行動変更がなかったのか等問題が生じます。行動中に小屋を通過する際に、小屋に備え付けのノートがあります。そのノートにパーティの名前と時間を書きとどめる。その痕跡を残しておく。と遭難捜索上有意義になるといふ事です。大抵は計画書提出して終わり、折角小屋を通過しても何もしないという人達がまだまだ大勢います。苦しい山行中に何かあった時の事を考え、自分の痕跡をあとに残しておいた方がよいという事です。

「処理対策」

レスキュートレーニングは、しないよりもした方が事故に対する行動がスムーズになるということ。会で言えば当然遭難救助訓練として、いろんな収容搬出方法といったトレーニングをやっているとありますが、当然事前にレスキュートレーニングをやっている人間や組織と、全くやっ

いない人間の組織とでは、おのずと事故があった時の対応が全然違ってきます。それは組織というよりも個人的に事故対策方法をみますと、そのトレーニングを受けているかどうかということ。す。

高体連 春季下越地区大会報告

村上高校 宮 沢 則 幸

荒天の手荒い歓迎を受けた
 俎倉山登山顛末記。

女子1班の3班編成で登山口までの3キロメートルを歩く。

5月9日、14時新発田市東赤谷「滝谷森林公園キャンプ場」にて開会式。雨天のため会場を管理棟に変更する。参加は男子9校50名、女子3校13名、顧問21名の計84名。開会式後、笠原嘉明先生(新津高)の授業風景を彷彿させる講座があり「山岳名の謂れ」

が例年になく多く、渡渉が困難と判断し、前日主管校で杉の間伐材を利用し橋を架けておく。全員がどうやら無事に渡れて安堵する。スリルに富んだ濡れた鎖場付近も思った以上に難渋もせず通過するのを見、ただ天気回復を祈る。

「高校登山についての基本的な知識、心構え」について参加者皆真剣に聴く。講座後、管理人の好意により同会場にて顧問会議を開く。

コースの下見報告後、1時間以上におよぶ顧問の自己紹介があり、各顧問の山行歴に感心する。

10日、朝食時には晴れていた空も、出発の5時半頃より雨が降り始める。男子2班、どうか、初動操作あるいはテープカット等のやり方集め方が非常に違います。やはり機会がある限り積極的に事故に対処するトレーニングは積んでおくということ。す。

この後もお京平付近まで時々雷鳴が聞こえる。お京平通過後雨もあがり、雷鳴もなくなり、友達同志の会話も復活する。快調に下山を続け、12時登山口到着する。無雪期なら1時間半位で登頂できるのに残雪期に荒天が重なり3時間以上もかかってしまった。あらためて、春山登山の難しさを実感する。12時30分閉会式。大会委員長佐藤剛先生(新発田)より「雪上歩行、荒天対策、靴、雨具の手入」などの講評をいただく。講評の中で「今回の登山で、懲り懲りしたと思う人」との質問に十数名の挙手があった一方、「今回の登山が楽しかったと思う人」の質問にも同数位の挙手があったのを見て主管校として幾分か救われる思いがした。生徒達は山岳天気準フルコースを体験したが今大会後に多くの退部者が出ないことを祈念して大会報告としたい。

南極だより5号

越冬隊員

片桐 一夫

(1996.6.24ドーム基地発) 祝 ミッドウインターの

激励文、37名の皆様からの寄せ書きたいへん有難うございました。

ちょうど、21日の昼に全員が集まったところで受け取りました。

「山仲間」の皆様からの短いコメントにグッとくるころがあり、改めて自分がこんなにたくさん仲間たちに見守って頂いていると思うと後半の7カ月を安心して仕事に専念できるという思いに駆られております。

もちろん、世界各国の南極観測基地とのFax交換もたくさん頂き、壁に張り出されました。さて、21日から23日まで初の3日連続休日日課となり、ほとんどの隊員が昼まで起きてきませんでした。休日には、朝食と昼食は食べた人が勝手に何か作って食べる事になっていたりもありません。私はちょうど21日が当直で9時起床、発電機のワッチなど作業がありました。さて、ミッドウインターの21日、正午頃、北の空は明るさが残っており、全天が星空とはなりません。これは写真撮影をしましたので、これくらいは明るさは帰還後

のご報告とさせて頂きます。この日、午後から今回の目玉行事であるマイナス70℃の星空の下で、「露天風呂」を楽しむの行事があり、全員でドラム缶風呂の設置をしました。

入浴後はビンゴゲームで決定して一番の人はかなりの勇気が必要でしたが、入ってみるとなかなかのものだったようでゆっくりしていました。私は6番くらいで感想は「まずまず」でした。

湯温はそれなりでしたが首から上が幾らか問題になりました。温度差が100℃を越えるからです。湯の表面からの蒸気が延ばし放題の髭や、まつげ、眉毛、頭髮に氷となつて張り付き、真っ白になりました。「風呂」から出るときがまたノウハウが必要ですが、あらかじめ「手順」を考えておき、それと出て、「スッポンポン」で基地に走り込みます。湯から出た瞬間から身体が凍り始めます。10mくらい走って基地内に入り、そのまま「内湯」に入ってしまうと落ちつきません。私の後に入浴したある隊員は急ぐ余り自分のブリーフを忘れてしまい、かなりの時間、捜索してしま

した。その時の写真も撮影してありますのでご期待ください。3日間は豪華な夕食を楽しみ、最終日の昨日もう一度「露天風呂」に入りました。今

度はみんな落ちついたものでも私もあらかじめ湯に入れてもらっておいした「ふなぐち菊水一番しぼり」をゆっくり嗜み、北の空に浮かぶ下弦の月を眺めながら南極大陸3810mの氷床にある「露天風呂」を楽しんだ次第です。

そして、最後に昨日の夕食が終わってからドラム缶に穴をあけた中でキャンプファイヤーよろしく「焚火」をしました。しかし、いっこうに暖かくなくと、ドラム缶の周囲に燃料を立てかけて火を大きくしようやく焚火らしくなり、暖かみも出てきたわけです。マイナス70℃の気温と平地の60%の酸素と言いう条件でも「火」はよく燃えま

顔の周囲温度と、背中の温度差は150℃くらいもあったのではないのでしょうか？これは、なにしろ、「木杵」がたくさんあり、あと2〜3度も楽しめそうです。

大昔から人類は火を使ってその文化と歴史を作ってきたわけですが、木の燃える匂いを感じながらふとそんな思いが浮かび、一瞬、懐かしさが、こみ上げて参りました。

そんなことで日頃の疲れを癒した3日間のミッドウインター休日が終わりを告げて、今日からまた氷床掘削の毎日が始まっております。ではまた

新潟県山岳協会・海外登山研究会 開催案内

趣旨 県内岳人に海外登山に関する最新情報を提供するとともに、海外登山に関心のある岳人相互の交流及び情報交換の機会とするために開催する。

主管 新潟県山岳協会海外登山委員会

期日 平成8年9月28日(土) 午後7時～9時

期日 新潟市万代市民会館 新潟市東万代町9番1号

☎025-246-7711

内容 ①主催者あいさつ

②海外登山隊報告

・千葉工業大学 ナンガ・バルバット登山隊1995
1995年7月、ナンガ・バルバット(8125m)
北面で新ルートを開拓して登頂に成功、同ルートを「千葉工業大学ルート」と命名した。

・報告者 同登山隊長 坂井広志氏

・スライドを多数使用する予定。

③質疑及び意見交換

④閉会

その他について

・研究会終了後、会場を移して懇親会を予定。

・研究会参加費 1000円

・研究会事務局(連絡・照会先)

新潟県山岳協会海外登山委員会 田中純夫

新潟市川岸町2丁目13番地7 ☎025-267-2743

・参加希望者は当日、会場へお越し下さい。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736